

トピック(テーマ)		浅間山米軍演習地化反対運動	
ねらい		日米安全保障条約の行政協定により、米軍基地が日本各地に設置された。設置反対運動が各地で行われたが、見事に勝利したのがこの浅間山演習地化反対運動だった。ことの始まりは、朝鮮戦争の際、米軍は山岳戦で苦戦した。そのため山岳戦の訓練場所として浅間山山麓が最適地として土地の接收に動き始めたことからであった。そのことを知った軽井沢町民はじめ200万長野県民は思想信条を超えた反対闘争を展開した。その結果、米軍は「われわれは浅間山を演習地とするためあらゆる努力を続けてきたが、使用は遂に不可能になった」とする正式な撤退声明を出して撤収するという完全勝利を得た。全国唯一の成功例と言われる。米軍基地を抱える日本で平和を志向するには何が大切かを考えるうえでみおとせない実例	
キーワード		国際親善文化観光都市 浅間山ろく米軍演習地設定反対意見書 『大地』著者パール・バック 東京大学地震観測所 浅間山米軍演習地化反対期成同盟 小山邦太郎 信濃の歌 堀辰雄	
概要を知るためのツール	1	書名	二百万人の勝利 浅間山米軍演習地化反対運動史
		著者名	長野県浅間山米軍演習地化反対期成同盟
		出版社	
		出版年	1953
		内容紹介	問題のはじまり、経過、運動の展開の様子が基本となる史料も取り入れられ論述されている。縦18.0cm×横12.8cm 125頁 所蔵：国際日本文化研究センター、国際日本文化研究センター所蔵資料のマイクロ形態による複製がある
資料リスト	1	書名	朝鮮戦争と長野県民
		著者名	新津新生／著
		出版社	信州現代史研究所
		出版年	2003
		内容紹介	朝鮮戦争が休戦協定を締結してから満50年に出版された本書は、「朝鮮戦争が日本なかんづく長野県にとって何であったのか」という視点から研究された大著である。この中で、「浅間山米軍演習地化反対運動」として詳細に論じられている。文末の「浅間山米軍演習地化反対運動(年表)」から根拠史料がわかり、研究を深めるのに役立つ。
	2	書名	軽井沢を守った人々 浅間山米軍演習地化反対運動の思い出
		著者名	田部井健次／著
		出版社	軽井沢文化協会
		出版年	1981
		内容紹介	浅間山米軍演習地化反対運動をきっかけに誕生した軽井沢文化協会の初代幹事長で画伯の田部井健次の講演記録を編集した「反対運動の発端から終結にいたるまでの事情をありのままに書い」た本である。「軽井沢町を一層文化的な、一層民主的な町に育てて行く仕事をする上で、「参考になれば」との思いで出版された本である。

浅間山米軍演習地化反対運動

	3	書名	軽井沢を青年が守った 浅間山米軍演習地反対闘争 1953
		著者名	荒井輝允／著
		出版社	かもがわ出版
		出版年	2014
		内容紹介	『二百万人の勝利 浅間山米軍演習地化反対運動史』、『軽井沢を守った人々 浅間山米軍演習地化反対運動の思い出』では、あまり取り上げられていなかった「反対運動の中核となって活躍した青年たちの立場から書いた」本となっている。運動の経過や内容は、前2著に寄り添っている。
	4	書名	長野県政史 第三巻
		著者名	長野県
		出版社	第一法規出版社株式会社
		出版年	1973
		内容紹介	第三章 戦後の社会の混乱と復興 第三節 社会運動の発展と生活の向上 二 平和運動などの社会運動 の項で「二百万県民の浅間山演習地化反対闘争」として概要が記述されている。
	5	書名	資料労働運動史 1951
		著者名	労働省／編
		出版社	労務行政研究所
		出版年	1952.12
		内容紹介	第八章 軍事基地反対闘争の展開
新聞	1	発行機関	信濃毎日新聞
		年月日	1953.4.3/ 5.19、20、23、5.26、.27/ 6.7/ 7.1、7.16
	2	見出し	軽井沢の浅間山米軍演習地化反対運動から60年
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊11ページ
	3	見出し	沖縄米軍基地 問題意識共有
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊34ページ
	4	見出し	浅間山米軍演習地化反対闘争 結束し勝利
		発行機関	信濃毎日新聞 朝刊27ページ
		年月日	2020.11.27
コメント		『二百万人の勝利 浅間山米軍演習地化反対運動史』の閲覧困難な場合は、資料リストに掲げてある『朝鮮戦争と長野県民』を読まれることをおすすめする。	